

令和7年度小平市立第二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ1.2ポイント高く、都平均と比べると2ポイント低い。学習指導要領の内容ごとにみると、ほとんどの項目で全国平均を上回っているが、「読むこと」に関する問題での正答率がやや低く課題といえる。

課題

「読むこと」のうち、「資料に書かれていることを理由にして自分の考えを書く」記述式の設問に関しては、34.1%の児童が無回答だった。文章や図表などを結び付けて読み取り必要な情報を見付け、自分の考えを表現する力を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

「読むこと」を重点的に指導していく。各単元において、文章を読み取るときに、重要な言葉や文に着目させながら、文章や図表などのつながりを丁寧に確認する。また、記述式の問題に対する無回答率を減らすために、国語の授業では、自分の考えを書いて表す活動を意図的に設定し、書く習慣の定着を図る。型を提示し、常に本文に立ち返らせながら根拠を明確にして考えを組み立てるよう指導する。

【算数】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ7ポイント高く、都平均と比べると1ポイント高い。学習指導要領の内容ごとにみると、都平均と比べて、ほとんどの項目で0.5～1.6ポイント上回っているが、「変化と関係」は0.7ポイント下回っている。

課題

「変化と関係」の「10%増量」前後の量を比べる問題では、正答率が46.3%と低い。割合に対して苦手意識をもっている児童が多いと感じる。また、「分数」について数や言葉を用いて記述する問題では、正答率は22%と低く、理解の定着を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

朝学習の時間や、3学期の学習内容である「算数の学習をしあげよう」で、小学校の総復習を行っていく。基礎的な語句の確認、基本的な公式、分数、小数の計算など、全範囲の復習を行う。基礎・基本的な問題を繰り返し解くことで定着を図り、理解を深めさせていく。また、友達と教え合ったり、デジタル機器を活用したりするなど、授業内容を工夫することで、児童が意欲的に学習できる環境を整えていく。

【理科】

状況の分析

課題

平均正答率は、全国平均と比べ7.9ポイント高く、都平均と比べると5ポイント高い。学習指導要領の区分・領域で見ると、全ての項目で平均を上回っているが、「A区分」のエネルギーを柱とする領域については、他の領域と比べ、正答率が低かった。

「知識・技能」の観点では都平均より+3.2ポイントに留まる。金属の性質や、顕微鏡の操作など、基礎的な知識を問う問題で誤答が多い。また、実験結果から自分で考え、見いだした新たな問題を記述する問題では、無記入の児童が多く見られた。結果から考察し、新たな課題を見いだす力を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

問題解決の学習においては、生活体験や既習の内容と結び付けながら予想や仮説を立てさせて、主体的に観察・実験に取り組ませることで、知識の定着を図り、理解を深めさせる。

また、結果からどのようなことがわかるかを考察し、結論を導きだしたり、新たな課題を見いだしたりする際に、話し合いを充実させ、対話的な学びを促すようにする。また、観察・実験の際には、基本的な技能についても丁寧に確認しながら取り組ませるようにする。

【質問紙】

状況の分析

課題

「将来の夢や目標を持っている」は77.5%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が100%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」が86.3%と将来に対して前向きに捉え、社会に貢献しようと考えている児童が多い。学習に対して肯定的で、友達と話し合う活動を通し、自分の考えを深めたり広げたりしている自覚がある。

学習の重要性は理解しながらも、「学習した内容について分かったことや、よく分からなかったことを見直し、次の学習につなげる」ことや、「主体的に課題を見つけて家庭学習に取り組む」ことの数値が比較的低い。児童の実態に合わせ、物事に取り組む際に主体的に関わっていけるような指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

家庭学習において、復習・予習を含めた自主的な学習に取り組ませる。自主的な学習を通して、自ら計画を立て、自身の苦手を補い、得意を伸ばしていくような主体的な態度を育てていく。そして、自分の課題に向き合い、粘り強く挑戦し、振り返りを行い、次につなげていく習慣を身に付けさせる。また、各教科の授業では、問題解決的な授業づくりを心がける。問題に対する自分の考えをもち、友達と互いの考えを交流することで理解を深める「主体的・対話的で深い学び」を具現化できるよう指導改善を図り、学習内容を定着させられるようにする。